

だれでも幸せになれる教えです!!

ひかり

2021年
12月

196号

◇ 仏さまの声が聞こえていますか！

すべては自分の心の現れ、自分の蒔いた種



ながながと

川一筋や

雪の糸

五月かゝ
印

宗教法人 真生会

仏の種を育てよう！

『一人が一人、仏縁にお誘いしよう』

真生会の教えとは！

仏さまの智慧とものの見方を身に付け、自分の運命を変え、在家の法華経教団です。宗旨宗派は問いません。どなたでも安心してお越し下さい。

◇慈悲の世界「真生楽園建設」

- ・ぬくもりと安心のある家庭と社会を作る
- ・思いやりと親切の実践

◇即身成仏「輝く自分作り」

- ・ありのままに輝く自分自身になる
- ・笑顔と明るい声がけの実践

◇幸福の五ヶ条

- 一、素直な心：（おかげさま）
- 二、誠の心：（まず人さま）
- 三、明るい心：（きつとよくなる）
- 四、尊ぶ心：（仏性を拝む）
- 五、信じる心：（皆、仏の子）

初詣

総本山真生寺
元旦、2日
正午～4時

慈悲廣大の鐘
福寿の鐘
初鐘つき
金色短冊おみくじ
仏さまの声

☆大阪教会
元旦 昼1時～3時

☆名古屋教会
元旦 朝10時～

◆除夜の鐘に参加ご希望の方は、総本山真生寺にお電話またはFAXにてお申込み下さい。定員になり次第予約を終了致します。お早めにご連絡ください。



大晦日 夜8時～9時

七五三詣り、子供災難除け祈願（11月14日）



総本山真生寺にて



大阪教会にて



☆聖地一斉勤労奉仕
十一月二十一日（日）爽やかな秋晴れの中、岐阜教会、大阪教会の信徒代表の皆さんでお山の清掃奉仕が行われました。



開祖さまのみ教え

開祖 田中偉仁

亡き老母の一周忌目前に、真面目な工場次長のご主人が交通事故で老婆を死亡させてしまい相談に來られました。成ったことはどうにもなりません、解決の方法が大切です。「責任を

転嫁せず、潔く責任を取りなさい」誠心誠意ご遺族に足を運び、門前払いをされながらも四十九日間玄關の横隅でお詫びの読経供養を続けられました。そして、事故を起こした原因である亡き母に対する親不孝の懺悔でした。長年老人ボケになられた母を表向きはよく面倒見ておられました、看病が辛く大変でしたので内心はどれほど早く死んでほしいと思ったかもしれなかったことを深く懺悔され、毎朝早朝に教会へ日参もされました。遺族にも誠意が伝わり許され、判決も禁固一年執行猶予三年の情状酌量となりました。懺悔罪障消滅、法華経行者の祈りと願いは必ず通じて天人が守って下さるのです。

(1990年、真実に生きるひかり85号より)

ぶし眞教法話

会長 田中庸仁
た なか つね ひと



◇仏さまの声が聞こえていますか！

經典に「常住此説法」じょうじゅうしせつぽうとあります。私達の目には見

えませんが、仏さまはいつも私たちが生活しているこの娑婆世界に住んでおられて、すべての人が正しい生き方に気付いき、目覚めるように法を説いてお見えになるということなのです。

ある時は人を通じて、またある時は出来事を通じて語りかけて見えるのです。しかし、その声は学問や知識の力だけでは、正しく聞き取れることは出来ません。仏さまの智慧、つまり諸法実相しよほうじつそうの教えと、すべての人を無上道（仏の世界）に導いてあげたいという仏さまの慈悲の心に守られているということが分からないと現象の眞実が見えてきません。

◇すべては自分の心の現れ、自分の蒔いた種

十一月四日のニュース報道の事件です。中年男性のバイクライダーが、若者二人の乗った車を突然あおり運転で行く手を阻み、バイクを下りて来て車に近づき大喝一声「なめとんのか」と叫びながら窓ガラスをたたき、車のナンバープレートを折り曲げ、警察が来る前に逃げ去った事件がありました。

若者二人は、威嚇されたり暴力を振るわれるような運転や悪いことなどしておらず、身に覚えのない出来事であったようです。いわゆる難くせを付けられ恐ろしい思いをしたのです。

この若者の車のナンバーは「・・・1」という番号で、偶然ではなく申請をして有料で取得した番号なのでしょう。どんな番号を付けていようと自由であり、誰にも迷惑をかけているわけでもありません。

確かにこの青年と通りすがりの加害者とは何の関係もなく、常識的には一方的に加害者が悪いのですが、「困る者の罪」でこれにも原因があります。法華経の「諸法実相」の智慧で見れば一目瞭然です。「蒔いた種と同じ実が稔る」というのが真理です。世の中は善いことも悪いことも「人に与えた思いを受ける」のです。つまり、この若者が誰かを脅かし恐ろしい思いを与えてあったから、

その種まきの結果として恐ろしい目に遭ったのです。

若者の車は、スポーツカー系の高級車のようでした。きっと親に応援してもらって買った車なのでしょう。その時に目上である親に対して、感謝して買ったのではなく、文句を言って脅かすようにして手に入れた車なのでしょう。きつと親は、我が子の要求に身の縮むような恐ろしい思いをしたという種まきがあつたと思います。これは、因果の理法でなくてはわかりません。

聖祖様の説法にこんな実例があります。

ある指物師さしものし（家具職人）の息子が、繁華街の交差点に差し掛かった時、信号が黄色から赤に変わったので急ブレーキをかけて停車しました。すると横断歩道を渡ろうとしていたチンピラが、車に触れてもいないのに因縁をつけてきたのです。「おまえが急ブレーキをかけて停まったから、びっくりして寿命が縮まった。びっくり賃よこせ」と難くせを付けられ、いついつまでに俺ん家に持って来いと脅され、困り果てて相談に来られたのです。

聖祖様はこのように説法されました。

「息子さん、ぶつかってもいないのにびっくり賃をよこせと脅されたのは相

手が悪いのではありません。あなた最近お金の事で誰か目上の人に怒ったり文句を言ったことはありませんか」

ちよつと考えて、

「お金の事といえば、私は父親の家業を継いで指物師の修行中ですが、給料が安いので『給料をもっと上げてくれ。上げてくれないのなら、家業は継がない。出て行く』と怒って文句を言いました。これがいけなかつたのでしょうか」

「よく気が付かれました。その通りです。賃上げのお願いをすることは特別悪いことではありませんが、大声で文句を言い、上げてくれないければ家業を継がずに出ていくという捨て台詞ぜりふは、親に対する脅しでありチンピラ根性です。きつとお父さんは困り、身の縮む思いをされた事でしょう。その罪がたまたま急ブレーキをかけたという縁に触れ、結果となって現れたのです。」

早速お父さんに懺悔をして心からお詫びすることです。」

その後、相手からは何の連絡もなく、事は収まったのです。

こんな実例もあります。

太平洋戦争中、職業軍人で憲兵であった男性が、終戦で引き上げてきて芋いもよ

うかん製造の仕事をはじめたが、第三国人（東南アジア人）に売り上げを持ち逃げされ、店は倒産し家も失いア・パート暮らしとなり、こんな馬鹿なことはないと腹を立て、困り果てて相談に来られたのです。

「真面目に一生懸命働いていたのに、こんなことになる原因が分かりません」と意気消沈のこの男性に聖祖様はこのように説かれました。

「あなたは戦争中、外国で憲兵の権力で現地人から、金品財産を不当に取り上げ苦しめた種まきはありませんか」との問いかけに、この男性は顔色を失い「先生、なんでそんなことが分かりますか？お恥ずかしい限りですが、先生のおっしゃる通り、破竹の勢いでアジアの国々を占領していく日本軍の勢いに乗じて、随分ひどいことをしてきました。その報いなのでしょううか」

「その通りです。今さら現地の人に返すこともできませんから、心から申し訳ないことをしたと懺悔し、人の嫌がる、人のやりたがらない『便所の汲み取りの仕事』から立ち上がっていくことです。そして『日本一の汲み取り』になって徳が積みめれば、必ず幸せになります」

「先生、日本一の汲み取りとはどういうことですか。どうやって徳を積むの

ですか」

「古新聞を持って歩き、糞尿ふんにょうの汲み取りの後、汚物で汚れた汲み取り口をきれいに拭いて相手に喜ばれる徳を積みなさい。きっと幸せな人生がやってきます」

市の汲み取り職員として働き始め、教えの通りに実践し続けられた結果、どんどん出世し課長・部長となり、最後はごみ焼却場の所長にまでなり、晩年は新築の家に住み学生アパートも持ち、悠々安楽な生活をされたのです。

◇今年の汚れは今年の内うちにきれいにしておく

今日の出来事、自分にやって来る問題は誰のせいでもありません。仏さまが何かを通じて誰かを通じて、私達人人として正しい生き方を教えて下さっているのです。誰も知って作った罪と「知らず知らずのうちに作った罪」があります。どちらも、自分で蒔いた種は自分で刈り取り、罪の穴埋めさえできれば、どんな境遇からでも幸せになれるのです。今年も後わずか、今年のうちうちに作ってしまった心の汚れや罪は、しっかり教えを学び師の添削を受け、きれいにし来年に持ち越さないように精進しましょう。

釈尊物語

①⑥

◇◆心を耕し、信の種をまく◆◇

ある時、お釈迦さまが農繁期の収穫を終えた一軒の農家を托鉢たくはつに訪れた時のことです。応対に出た農家の主人が、語気を強めてこう言いました。

「沙門しゃもんよ。私たちは、毎日田を耕し、種を蒔き、手間暇かけて食を得ているのだ。人に食を乞うこのではなく、あなたもまた、自ら田を耕し、種をまいて、食を得たらどうだ。人はこんなに忙しく、額に汗して働いているのに、あなたは、少しの労働も無く、悠然ゆうぜんとして人から食を得ようとしているが、それでいいのか」

という詰問きつもんです。

するとお釈迦さまは、動ずることなくさらりと答えられました。

「その通りである。私もまた耕している。耕し、種をまき、そして収穫して、食を得ている」

お釈迦さまをやり込めようとした農家の主人は、予想外のお釈迦さまの返答に驚き戸惑とまむい、さらに問うて言った。

「だが、沙門よ。私どもは、誰もまだ、あなたが田を耕したり、種をまいたりする姿を見たことはない。いったい、あなたの鋤すきはどこにあるのか。あなたの牛はどこにいるのか。また、あなたはどんな種をまくのか」

農家の主人には、お釈迦さまの言う意

味が、わからなかったのです。詰問者は、いつの間にか質問者に変わりました。

「いったい、あなたが耕すというのは、どうということなのであるか」

釈尊は静かに語りはじめられます。

「人間の耕さねばならぬものは、大地だけではない。人間は自分自身の心を耕さねばならない。『智慧』をもつて鋤とし、『信』という種を蒔くがよい。次には、よく心して草取りをしなければならぬ。『身・口・意の三業』において、悪い行い、悪い言葉、悪い心使いを制することが除草である。

そして、私の牽く牛は『精進』という牛である。この牛は前進のみで後退することを知らず、真っ直ぐに我等の心安ら

ぐ境地に運んでくれる。

私が耕すというのはこのような意味であり、収穫するのは『安心と悦び』という甘露かんろの果実である。それを食することによって、人は一切の苦から自由になれるのである」

真理に目覚め感動した農家の主人はその場において、終生の在家帰依者となつたのです。イエス・キリストも「人はパンのみにて生きるにあらず」と教えていますように、私達も、生きるため生活費を得るために働くだけでなく、仏の教えを学び、心耕し、常に煩惱や欲といった心の雑草を取り、「心の豊かさと真の安心と悦び」が得られるように、下がらず離れず、前進し続けることが大切です。

今月の運勢（1月）

（2022年1月5日～2022年2月4日）

一 白水星

いよいよ新しいことが始まるうとして、生みの苦しみを伴うが、前途には光がある。全エネルギーを集中して困難を乗り越ければ、喜びが得られる。想定外の出来事に注意。

二 黒土星

物事が大いに進み上昇する。頂点を目指して前進する機運到来。自分の努力だけではなく、実力者の推挙が必要となる。偉い人に出会い、経験豊かな実力者の応援が得られれば、何も心配はいらない。

三 碧木星

行動的に動く時ではな

い。中心にいて物事や

人の動きをよく観察し、エネルギーを蓄えよう。熟慮の時であり、これからの計画を練り直し、人の登用、配置を再検討するとよい。

四 緑木星

物事を完成させ収穫の時だが、エネルギーが足りない。目指す方向は正しいが時期尚早、準備不足の感がある。大きな収穫は得られないが、小成に甘んじていけない。粘り強く初志貫徹を目指そう。

五 黄土星

今日までの結果や収穫が得られる。家族や友人と楽しく団らんの時

を過ごし、喜びを分かち合う施しをしよう。

但し、調子に乗り過ぎて散財をしないよう注意すること。

六 白金星

壁にぶつかり、変化の決断を迫られる。今の立場をあつさり退いて悠遊自適に暮らすか、正しい道を守り、止まってこれまで同様に突き進むか、出処進退のタイミングが大切。

七 赤金星

旧態依然たる腐った部分を取り除き大改革の時。しかし、性急に行なってはいけない。周囲の情勢を見究め、機が熟したら断行しよ

う。流れに乗れば外にスムーズにいく。

八 白土星

知らないことや分からないことは、進んで尋ねるとよい。相手を信じて素直に純粋な気持ちで聞けば願うことは通る。自分に都合の良い答えを求め歩いては道を見失う。

九 紫火星

太陽のような明るさと大地のような素直さで我が道を歩めば、上位者から認められ、可愛がられていつか必ず昇進し出世する。皆を明るく照らし、公明正大に振舞うこと。怒りは信頼を失うから注意。

「まごころ誌代」御礼

小村友子	片桐淳子	伊東 晃	加納宏樹	早野桂子
今井純司	出田 梓	佐藤百々枝	加納快志斗	豊田直正
今井龍廣	村上視佑記	佐藤光洋	澤 君美	豊田真悠子
長尾かれん	平口富子	川瀬 勇	澤 芳子	堀部恭利
細谷早予子	坂本育身	滝本光夫	多田正幸	足立和美
樋口容子	笹原トミ子	京川春男	多田道子	足立恵衣子
樋口恵美子	笹原正子	東森敦己	水田祐記子	鈴木光隆
三村千佳	某女	鈴木正巳	田中庸仁	多田佳央
永田雅子	堀田純子	松本裕樹	田中佑季子	宮田雄貴
滝山恵依子	某	松本真由美	田中啓予	堀部祐美衣
奥田佳代	土川順寛	四日市某	田中宏明	宮田裕加里
宮島りえ	土川恭代	岸本周夫	亀井善広	亀井善二
荒木敬依子	土川康二	岸本昌子	亀井由実子	加納啓至
大下裕子	土川廣美	多田祥子	高橋身衣	松尾定洋
谷口祐晟	横山知津子	大橋末子	横井富男	平工初子
谷口祐子	半澤照子	多田敏春	横井志奈子	國井佑浩
小林佑実子	安田初子	加納悠貴	早野起世	

★皆様の『まごころ次第』献金のご協力によって継続発刊しています。
紙面をもつて感謝申し上げます。(敬称略・順不同)

《入会のご案内》

真生会は、個人の心の勉強と実践を目的とする個人会員制です。各家の宗旨宗派はご自由です。詳しくは総本山真生寺、各教会にお尋ね下さい。

☆会員会費 500円/月

発行所 宗教法人 真生会 総本山真生寺
〒501-1105 岐阜市彦坂178番地
TEL 058(235)7304

発行人 会長 田中庸仁

振込先 三菱UFJ銀行 岐阜支店
普通口座 3715509

名義 宗教法人真生会 代表役員 田中庸仁

しあわせ眼鏡

人間とサルと信仰者

人間は食べ物を分かち合
い、サルは分かち合うこと
をしない。
物を施し、分かち合いの出
来ることが、人間とサルの
違いである。
法を施し、幸せを分かち合
うことができるのが、信仰
者と一般人の違いである。

お気軽にご連絡ご相談下さい

- | | | |
|----------|-----------|--|
| 【総本山真生寺】 | 〒501-1105 | 岐阜市彦坂 178 番地
TEL 058 - 235 - 7304 |
| 【岐阜教会】 | 〒500-8882 | 岐阜市西野町 3 - 19
TEL 058 - 262 - 9615 |
| 【大阪教会】 | 〒532-0028 | 大阪市淀川区十三元今里 3-4-10
TEL 06 - 6308 - 5637 |
| 【名古屋教会】 | 〒454-0808 | 名古屋市市中川区九重町 3 - 10
TEL 052 - 351 - 3904 |

上記の教会にお申込み下さい。必要な冊数を毎月お送り
します。詳しくはお尋ねください。